

平成30年度卒業式 学長式辞

愛媛大学長 大橋 裕一

太陽の日差しが日に日に温かくなり、花の便りに心はずませるこの頃です。桜前線が北上を続ける中で、ここ愛媛・松山でも桜の開花宣言があり、春の訪れを感じる季節となりました。

この佳き日にあたり、ただいま、1,865名の皆さんに学位記を授与させていただきました。ご卒業まことにおめでとうございます。皆さんに、心からのお祝いを申し上げます。

また、本日もご臨席されているご家族の皆様そして関係の皆様方、お子様のご卒業をお慶び申し上げますとともに、これまで本学に頂戴いたしましたご支援に対しまして、この場をお借りし、深く感謝申し上げます。

さて、本日の式典には原 愛媛県副知事をはじめ愛媛県の各界を代表する方々、愛媛大学経営協議会の委員の方々、そして愛媛大学にゆかりの深い先輩諸氏に来賓としてご臨席いただいております。ご多用の中をお越しいただきまして、まことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

「卒業」とは、次なる目的地へ向かう晴れの船出です。皆さんの多くは、「就職」という形で社会へと巣立っていくこととなります。しかし、決して恐れることはありません。愛大学生コンピテンシーに裏付けられた知識や技能、そして思考・判断力が皆さんには備わっているからです。是非、自信を持って発進してください。

他方、371名の皆さんは大学院へと「進学」され、さらなる勉学活動が続けられるとお聞きしています。大学院におきましては、探求と学びの姿勢のもと、より一層の深い知識と高い技術を修得され、「知の総合力」を一段とブラッシュアップしてください。

今年、平成の世が幕を閉じようとしています。平成の始まりは米ソ対立による「東西冷戦」の終結の時でしたが、皮肉なことに、平成の終わりは「新たな冷戦」の始まりということになりそうです。世界では今、分断と対立を生む「一国主義」が各地で顕著となり、極めて先行きの不透明な時代を迎えています。

その一方で、今や世界を繋ぐ必須の情報ツールであるインターネットにあらゆるモノが繋がれる「IoT」の時代が訪れています。第四次産業革命とも呼ばれる未来の社会では、ITとの接点なしに誰もが生きていくことは出来ないことでしょう。

今、未来へと旅立つ皆さんに、私からは是非お贈りしたい言葉があります。それは「いい失敗をしよう！」ということです。

「失敗は成功のもと」や「人は失敗から学ぶ」とはよく言われる言葉です。端的に言えば、われわれの人生とは失敗の連続ドラマなのかも知れません。

本田技研の創業者の本田宗一郎氏は、「私がやった仕事で本当に成功したものは全体

のわずか1%。99%は失敗の連続であり、実を結んだ1%の成功が現在の私なのです。」と述べています。ビジネス界での成功の確率はこの程度のものなのかも知れません。

失敗を肯定する名言はほかにもたくさんあります。「失敗は人間に必要であり、むしろ、早く失敗したほうがよい。そして、小さな失敗を積み重ねることによって初めて成功が見えてくる。」とはユニクロの柳井 正氏の言葉です。要は、失敗したところで諦めるから結果として失敗になる。逆に言えば、チャレンジを続ける限りにおいて、まだ失敗ではないのです。

大学というところは、そうした失敗を優しく見守ってくれる、皆さんを温かく包んでくれる場所であったかと思います。これは、数多くの失敗の蓄積があること、それを解決していくメソッドが備わっていること、そして何よりも皆さんを支えてくれた経験豊かなスタッフがいたことに尽きるでしょう。でも、いったん実社会に出れば、より困難な課題が皆さんを待ち受けています。解決に向けて取り組む中で必ずや失敗を経験することでしょう。どう対処すればいいのでしょうか。

最も重要なのは「失敗の質」を高める、すなわち「いい失敗をする」ことです。ここでは、これを「Quality of Life」のQOLに倣って、造語ではありますが、「Quality of Error」、QOEと呼ぶことにします。

このQOEを良好なレベルに保つには、目標が明確なこと、思考プロセスが適切なこと、そして得られた結果から次の方向性が絞りこめることなどの要素が重要となります。特に大切なのは、常に作業仮説を立ててトライすることです。

その姿勢を崩さない限り、たとえ、ネガティブな結果が出たとしても、何ら気にすることはありません。ある仮説が崩れればまた、新たな仮説に修正して次に進めばいいからです。ここは、「それは失敗ではない。その方法ではうまくいかないことがわかったのだから、それは成功なのだ。」という発明王エジソンの究極のポジティブ思考に学ぶ必要があります。実際、ノーベル賞に結びつくような優れた研究論文も、目には見えない多くのネガティブデータの山の上に成り立っているようなものだからです。

「人生に失敗がないと、人生を失敗する」とは、精神科医であり随筆家であった斎藤茂太氏の言葉です。プロ野球の名監督であった野村克也氏も、「私は『失敗』と書いて『成長』と読むことにしている。失敗を生かせる者には、それが『変化』となって現れる。」と意見は同じであり、みんな「失敗すること」を推奨しています。

これは失敗が、特にQOEの高い失敗が人間を成長させる力を持っているからに他なりません。独自の仮説の中で、新たな課題(リスク)に挑んでこそ、真に生きた知識が生まれるのです。Try & Errorの人生の中で、如何にいい失敗を重ねることができるか。そうしたいい失敗の中で、如何にビッグチャンスを作り出すことができるかが成功への鍵です。皆さんのご健闘をお祈りしています。

最後になりましたが、本日卒業されていく皆さんが、それぞれの分野で素晴らしい成果をあげられ、愛媛大学の名を高めてくださることを心より期待し、式辞といたします。